



MIYAZAKI SEIKO
INTEGRATED REPORT
2023



Corporate Message

当社は、以前から積極的に取り組んで来た「エネルギー消費の削減」、「廃棄物の管理とリサイクル」、「排出物の削減」などの環境保全活動を取りまとめる形で、2008年11月に初めて環境報告書(2008)を発行し、皆様に当社の活動状況をご報告させていただきました。

以来、2015年9月の国連サミットでSDGsに向けた世界的な取り組みが採択され、2020年10月には日本政府による「脱炭素社会の実現(カーボンニュートラル)」の宣言がなされるなど、社会の環境に対する一層の配慮と対応が求められる中、当社も年々その活動水準を高め、その内容と実績を同報告書にまとめ、毎年発行して参りましたが、昨年発行した「環境報告書 2022」で第15版となりました。

近年、こうした環境問題への対応を含めCSR(企業の社会的責任)やサステナブルな社会の実現に向けた取り組みがますます求められる状況下、当社は、環境問題や社会課題、ガバナンス強化と向き合い、企業経営の持続的な成長を目指すためのESG経営に積極的に取り組み、多くの活動を行っておりますが、こうした活動の状況について皆様により良く知っていただきたいと考え、今般これまでの「環境報告書」を改め、2023年の第16版より「統合報告書」としてレベルアップさせ、これを機に、取り組みもレベルアップ、企業として更なる進化を図っていこうと考えています。

自動車向けの大幅な需要増による半導体の供給不足やサプライチェーンの一部停滞等を原因とする部品供給の制約により、当社の主要な需要先である自動車業界では、思うように自動車が生産出来ない状況が長らく続いておりましたが、漸く出口が見え始めています。しかしながら、一方では、原材料、エネルギー価格の高騰、為替不安など、引き続き先行きの不透明さを拭いきれない状況が続いています。

ご存知の通り、自動車業界は100年に一度の大変革期を迎えており、EV化や操舵・ブレーキなどの電動化により、当社の主力製品においても大きな需要内容の変動が起きるものと認識しておりますが、当社としましては、現下の事業環境においても今後の需要変動にしっかりと対応できるよう、「生産性向上、コスト低減」、「品質・納期の維持向上」、「カーボンニュートラル対策ほかの環境問題対策」、「BCP(事業継続計画)の対策強化」、「情報セキュリティ対策」などの重要な課題に取り組むとともに、持続可能な、強固なサプライチェーンの構築に向け協力パートナー様とも連携し、様々な課題にチャレンジし、変革と成長への努力を重ねてまいり所存であります。

2023年7月

宮崎精鋼株式会社
代表取締役社長

宮崎 元伸



MIYAZAKI SEIKO
INTEGRATED REPORT
2023

編集方針

宮崎精鋼は、社会からより一層信頼される企業を目指し、2008年の第1回から15版に亘り、環境報告書を発行して参りました。近年の環境・社会・ガバナンスなどの情報開示の流れを踏まえ、従来の環境報告書の要素に中長期の事業戦略を加えると共に、品質、ガバナンス、社会への責任と貢献に関する内容を充実させ、統合レポートとして発行することと致しました。本報告書をステークホルダー様からの様々な要請に応えるコミュニケーションツールとしてよりわかりやすく、且つ、親しみやすくお伝えすることを念頭に置いて誌面づくりをしました。今まで以上に充実した内容で皆様に有用な情報をお届け出来るものと考えています。

対象期間・対象範囲

対象期間
2022年度(2022年4月1日~2023年3月31日)を対象としています。

対象範囲
宮崎精鋼株式会社
本社工場、十四山工場、知多工場を対象としています。

報告書発行日

2023年7月

参考にしたガイドライン

環境省 「環境報告書の記載事項等の手引き」
「環境報告ガイドライン2012年版」
「環境報告ガイドライン2018年版」

●本レポートは、以下のアドレスでもご覧いただけます。
<http://www.miyazaki-seiko.co.jp/>

CONTENTS

- 01 Corporate Message
- 02 目次
- 03 社是・経営理念・行動指針

会社情報

- 04 会社概要・取引先・特殊鋼棒線二次加工
- 05 売上高・取扱数量・沿革
- 06 グループ概要
- 07 主要製品

経営計画

- 09 President's Message
- 10 経営ビジョン・CIF30における経営戦略

環境マネジメント

- 11 環境理念・方針
- 12 推進体制と活動経緯
- 13 環境教育
- 14 マテリアルバランス
- 15 カーボンニュートラル
- 16 緊急事態対応テスト
- 17 ゼロ・エミッション活動
- 18 省エネ活動
- 19 環境目的プログラム達成状況
- 20 環境測定データ

品質

- 21 品質方針
- 22 品質維持、改善に向けた取り組み・品質実績の推移

安全衛生

- 23 労働災害の撲滅
- 24 健康経営

リスクマネジメント

- 25 サプライチェーンマネジメント
- 26 コンプライアンス・情報セキュリティに関する取り組み
- 27 大規模災害への備え・BCP

社会への責任と貢献

- 29 地域貢献(社会との交わり)



社 是

若々しい創造力と情熱あふれるチャレンジ精神で
行動し誠実を以て企業としての責任を果たす

経営理念

1. 顧客に対する責任

より良い品質・納期・競争力あるコストを実現し、
更に時代の変化に対応した技術と商品を開発する事

2. 社会に対する責任

我々の作る商品を通し地域社会に貢献する事

3. 社員に対する責任

働く生き甲斐と活力ある職場を作る事

4. 株主に対する責任

健全な利益をあげ株主の信頼に応える事

行動指針

1. 常に“青春”の心を持ち何事にも積極的に
チャレンジする

2. 基本を身につけ変化に対応した行動をとる

3. 公平で誠実な心を持ち信頼を築く事

会社概要

会社名	宮崎精鋼株式会社		
本社所在地	愛知県名古屋市中川区丸米町一丁目1番地		
創業	1938年 8月 (昭和13年)		
代表者	代表取締役社長 宮崎 元伸		
資本金	1億4,700万円		
従業員	281人 (2023年6月1日現在)		
事業所	本社工場 愛知県名古屋市中川区丸米町一丁目1番地	(主要製品)	精密磨棒鋼・冷間引抜鋼管の製造
	十四山工場 愛知県弥富市馬ヶ地三丁目194番地	(主要製品)	精密磨棒鋼・冷間引抜鋼管の製造
	知多工場 愛知県東海市元浜町12番地	(主要製品)	冷間圧造用鋼線の製造・ ファインスラグの製造

取引先(仕入先・販売先)

主要仕入先様	日本製鉄株式会社 大同特殊鋼株式会社 他		
主要販売先様	株式会社アイシン	株式会社青山製作所	金田工業株式会社
	日立Astemo株式会社	メイラ株式会社	他多数

宮崎精鋼の特殊鋼棒線二次加工

【特殊鋼】

特殊鋼は、一般的な鋼材よりも高い品質や特性を持つ鋼の一種で、通常の鉄にさまざまな合金元素(クロム、ニッケル、モリブデンなど)を添加し製造します。
特殊鋼の特性や性能は、その使用目的によって異なり一般的に「高い強度」「優れた耐摩耗性」「耐熱性」などがあります。
これらの特性によって、特殊鋼はさまざまな産業分野で幅広く使用されています。

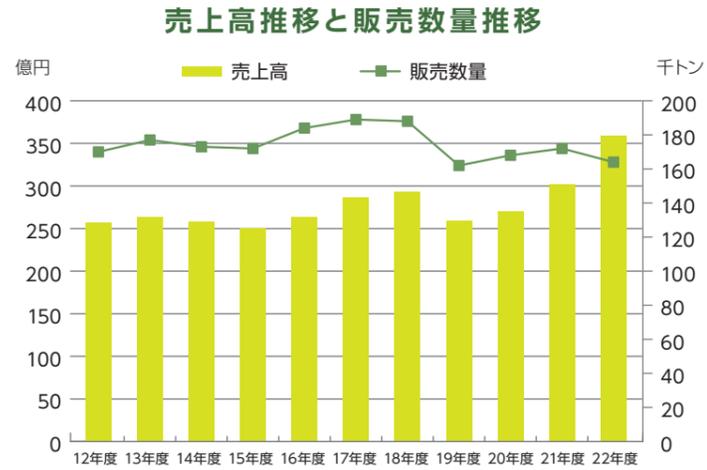
【二次加工】

素材メーカーでつくられた特殊鋼を最終製品の設計に適合する寸法や形状、機械的特性に加工する工程を二次加工と呼びます。当社では、引抜き・冷間鍛造などの塑性加工や、定尺切断・酸洗・熱処理(焼鈍)などの加工をしています。

売上高・販売数量

年度	売上高(億円)	販売数量(千トン)
12年度	257	170
13年度	263	177
14年度	258	173
15年度	250	172
16年度	263	184
17年度	287	189
18年度	293	188
19年度	259	162
20年度	270	168
21年度	302	172
22年度	359	164

*会計年度 6月1日から翌年5月31日



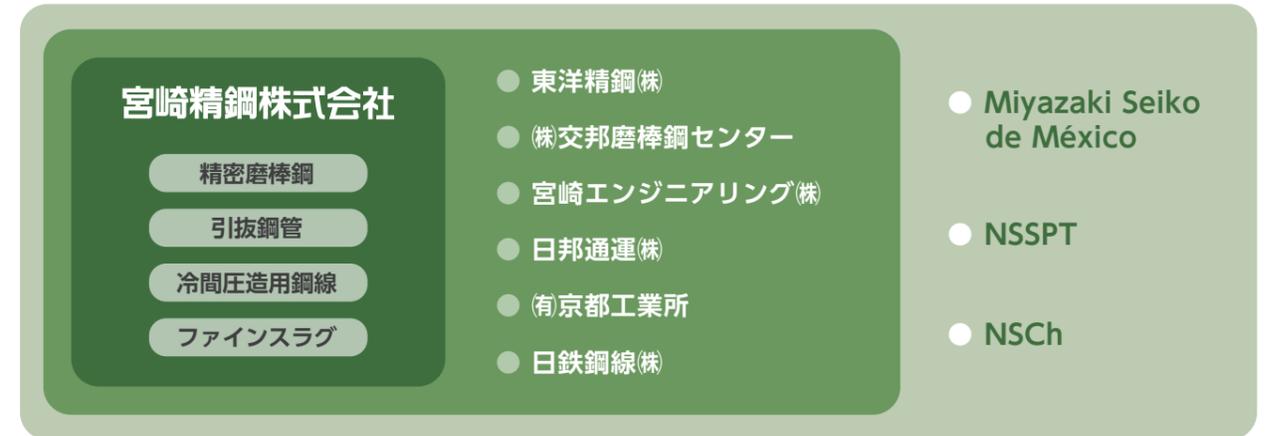
沿革

昭和 13年 8月 (1938)	宮崎鉄工所創業
34年 11月 (1959)	宮崎精鋼株式会社設立・資本金500万円
39年 6月 (1964)	JIS表示許可工場となる。
43年 9月 (1968)	知多工場(東海市)冷間圧造用鋼線専用工場完成
46年 3月 (1971)	(株)交邦磨棒鋼センター設立
49年 8月 (1974)	八重洲技研通商(株)設立
50年 3月 (1975)	東洋精鋼(株)設立
57年 8月 (1982)	八重洲技研通商(株)を宮崎エンジニアリング(株)に改称
平成 2年 7月 (1990)	十四山工場冷間引抜鋼管専用工場完成
4年 2月 (1992)	中京製線(株)へ資本参加
9年 4月 (1997)	知多工場ISO9002認証取得
10年 5月 (1998)	本社工場・十四山工場ISO9002認証取得
13年 6月 (2001)	ISO14001認証取得
14年 5月 (2002)	ISO9001認証取得
17年 11月 (2005)	本社工場 名古屋市工コ事業所認定取得
18年 11月 (2006)	出資会社の中京製線(株)は(株)チタックと合併し日鉄東海鋼線に社名変更(現 日鉄鋼線)
18年 9月 (2006)	日鉄特殊鋼棒線製品(蘇洲)有限公司を設立し資本参加(現 日鉄冷圧鋼線(蘇洲)有限公司)
18年 12月 (2006)	NBC(NIPPON STEEL BAR & CH WIRE)(Thailand)CO.,LTD.を設立し資本参加
20年 2月 (2008)	ISO/TS16949認証取得
21年 8月 (2009)	知多新工場竣工
25年 1月 (2013)	出資会社のNBC(Thailand)CO.,LTDはSP(Thailand)CO.,LTDと合併し NIPPON STEEL & SUMIKIN Steel Processing(Thailand)Co.,Ltdに社名変更 (現 NIPPON STEEL Steel Processing (Thailand) Co., Ltd.)
26年 3月 (2014)	MIYAZAKI SEIKO DE MEXICO,SA.DE C.V.をメキシコに設立
30年 1月 (2018)	IATF16949認証取得
令和 1年 11月 (2019)	本社講堂及び食堂棟完成
2年 4月 (2020)	製品展示室(本社)完成
5年 3月 (2023)	健康経営優良法人2023(中小規模法人部門)認証取得(2022年以降2年連続)

グループ概要

MIYAZAKI NETWORK

グループ一丸となって、他の追随を許さないオンリーワン・ナンバーワンを目指してチャレンジし続けます。



顧客ニーズに適材適所で応えるMIYAZAKIネットワーク

宮崎精鋼を中心に広がるグループネットワークは、顧客ニーズに的確に応えられるよう、それぞれが特色ある事業を展開し有機的に結び合うことで、総合力の強化を図っています。

宮崎グループ

東洋精鋼株式会社

所在地/〒490-1412 愛知県弥富市馬ヶ地三丁目195番地1
TEL 0567 (52) 3451 FAX 0567 (52) 3457
主な業務/ショットピーニング用投射材(Rounded Cut Wire)の製造
自動車・航空機部品ピーニング受託加工、ピーニング及び検査装置の開発製造

株式会社交邦磨棒鋼センター

所在地/〒454-0027 名古屋市中川区広川町5-1-11
TEL 052 (353) 1281 FAX 052 (353) 1285
主な業務/磨棒鋼(切断加工を含む)、冷間圧造用鋼線、硬質クロームメッキシャフト、面削品 その他鉄鋼製品の販売

宮崎エンジニアリング株式会社

所在地/〒454-0834 名古屋市中川区丸米町2-38
TEL 052 (369) 1711 FAX 052 (387) 5885
主な業務/冷間圧造用鋼線等金属工作機械製造販売・メンテナンス、中古機械販売
硫酸洗添加剤の販売、ISOコンサルティング(14001)、他

日邦通運株式会社

所在地/〒454-0842 名古屋市中川区宮脇町1-27
TEL 052 (363) 1166 FAX 052 (363) 1168
主な業務/陸上運送業

有限会社京都工業所

所在地/〒478-0001 愛知県知多市八幡字深山口1-6
TEL 0562 (32) 5486 FAX 0562 (39) 3381
主な業務/人材派遣事業、産業廃棄物収集運搬業、業務受託、製品検品作業

日鉄鋼線株式会社

所在地/〒501-3219 岐阜県関市のぞみヶ丘7
TEL 0575 (25) 6511 FAX 0575 (25) 6050
主な業務/冷間圧造用鋼線の製造販売及び普通鋼線の製造販売

海外事業所

Miyazaki Seiko de México, S.A. de C.V.

Avenida Villa de Lagos Sur 1126, Parque Industrial Colinas de Lagos
C.P. 47515 Lagos de Moreno, Jalisco, México
TEL +52-474-403-2018
主な業務/特殊鋼棒線二次加工業
磨棒鋼、冷間圧造用鋼線の製造、加工、購入、販売、流通、輸出、輸入、保管、在庫業務

日鉄冷圧鋼線(蘇洲)有限公司(NSCh)

蘇州市吳中經濟開發區淞路 1008 号
TEL +86-512-6708-1134
主な業務/冷間圧造用鋼線の製造・販売

NIPPON STEEL Steel Processing (Thailand) Co., Ltd.(NSSPT)

64/5 Moo 4 Eastern Seaboard Industrial Estate, Tambol Pluakdaeng, Amphur Pluakdaeng, Rayong 21140, Thailand
TEL +66-38-954-435-41
主な業務/冷間圧造用鋼線及び磨棒鋼の製造及び販売にこれらに付帯する事業

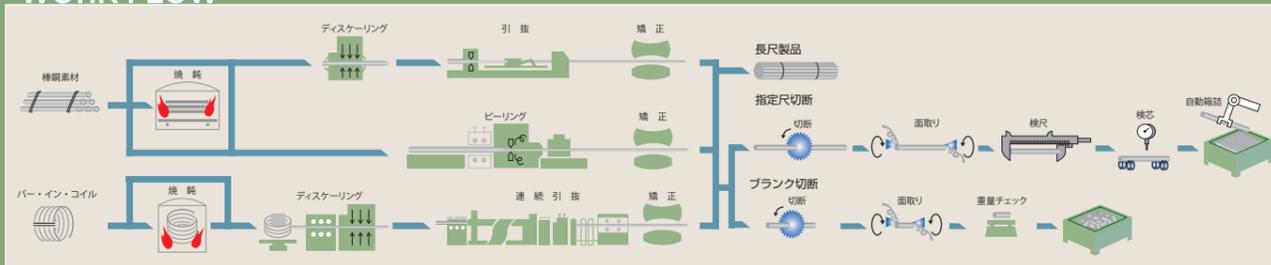
主要製品

精密磨棒鋼

特殊鋼線材または棒鋼を素材に、冷間引抜製品を始め、表面キズゼロを保証するピーリング(研削)製品や長尺セントレス(研磨)製品と、それらに切断・面取等の加工を施してお客様の用途やご要望に応じて高品質・高精度の磨棒鋼製品をお届けしています。



WORK FLOW

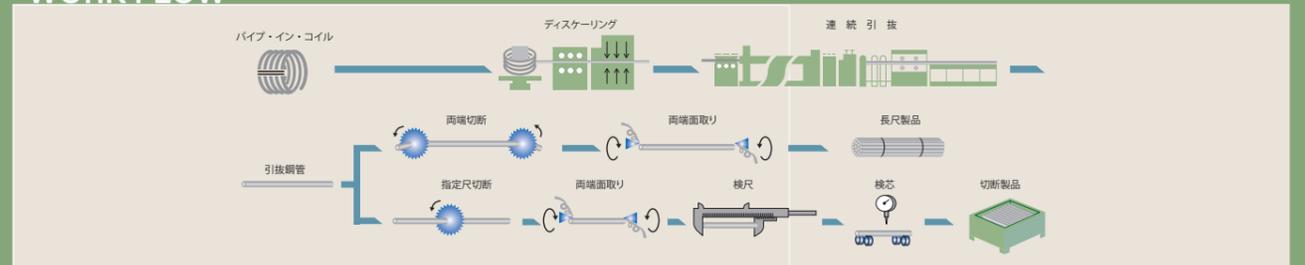


冷間引抜鋼管

PIC(パイプインコイル:SR鋼管をコイル状に巻き取った鋼管)を素材に、磨棒鋼の引抜技術を融合させて製造した鋼管製品は新たな用途・可能性を生み出しお客様のご期待に応えています。



WORK FLOW

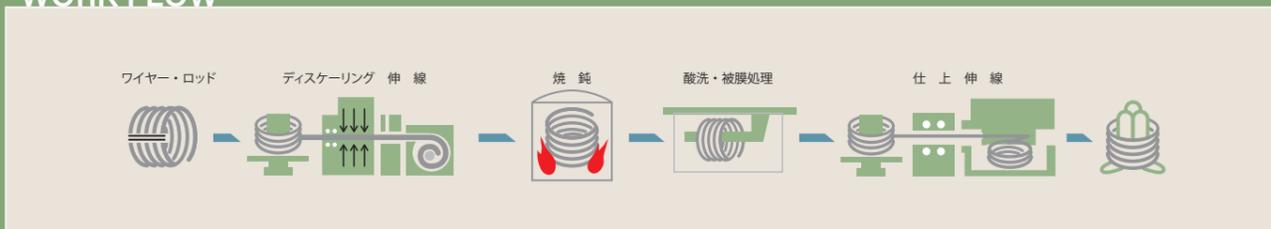


冷間圧造用鋼線

最適な加工方法で、安定した高品質の冷間圧造用鋼線をお届けすると同時に、最先端の技術・設備と宮崎独自の工夫で、環境にも徹底的に配慮した製品を造り出しています。



WORK FLOW

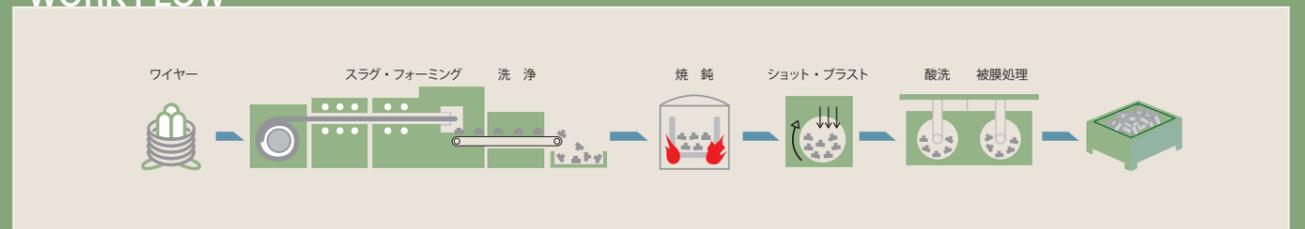


ファインスラグ

ファインスラグとは、「形状・焼鈍・被膜」の3拍子揃った冷鍛用素材材であり、当社は、長年培ってきた冷間圧造用鋼線の製造技術をベースに、形状・金型・加工工程の設計に至るまで、独自のノウハウと徹底した管理により製造しています。



WORK FLOW



President's Message

当社は、前中期経営計画（CC21、2019～2021年度）を2019年5月に策定、「オンリーワンの特殊鋼棒線二次加工メーカー」となることを目標に、「既存事業の強化改善と見直し」、「マーケティング戦略の推進」、「モノづくりの原点回帰と更なる競争力の向上」、「経営基盤の整備」、「新規事業の早期黒字化」、「より働き甲斐のある会社の実現」に向け取り組みを開始しました。その後の事業環境は、初年度後半（2020年初以降）から新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大した影響が長く続き、主な需要業界である自動車業界において低い水準での生産を余儀なくされるなど、計画策定時に想定した水準からは程遠いものでした。その結果、売上げ、収益など定量的な目標については、残念ながら未達となったものの、競争力や生産性の向上、営業力の強化、経営基盤の整備など定性的な面においては、多くの良い結果を残すことが出来たと考えています。

CC21に続く現中期経営計画（CIF30）では、新型コロナウイルス感染症の再拡大の懸念、半導体・自動車部品の供給不安、資材・エネルギー等の高騰、加速する自動車の電動化による鋼材需要減、ウクライナ紛争等の地政学的リスクなど、先行き不透明な状況下で策定したのですが、今後、2030年に向かって、自動車産業における電動化、少子高齢化と労働者不足、SDGsの一層の浸透など、当社を取り巻く事業環境が大きく変化してゆくことにしっかりと対応してゆくために、「企業力の強化」を更に推し進め、時代の変化に確実に対応し、業界における圧倒的な地位を確立することを目標としています。

標語のCIF30は、“Challenge our Innovative Future 2030”の略であり、大きな変化の時代に、社員ひとりひとりが自ら考え、積極的に行動し、企業の更なる革新と成長に繋げて行きたいとの強い思いを表現したものです。2030年のわが社のあり姿をしっかりと意識し、その実現に向けた現在の第1フェーズ（2022～2024年度）では、改めて基礎固めと時代の変化への対応に重点をおいて取り組みを行っています。

2023年 7月



宮崎精鋼株式会社
代表取締役社長

宮崎 元伸

経営ビジョン

① 全社員が「積極的に働く会社」

「自ら主体的に動き、提案し、実行する」企業文化を醸成する

② 誰にも負けない「宮崎ブランド」

お客様の期待に確実に応える良品づくりを続け、揺るぎない「宮崎ブランド」と業界における圧倒的な地位の確立に努める

③ 全てのステークホルダーから愛され、頼られる「強い会社」

筋肉質で、高品質・低コスト、確かな技術力、健全な財務体質を備えた「力強さ」と、社会から信頼、評価される「品格」のある会社を目指す

CIF30における経営戦略

① 「宮崎精鋼のSDGs」の実践

ESG経営の下、次の6つの Goals の達成に向け、各々の具体的目標の達成に向け確実に取り組む

<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 法令順守の徹底と管理の強化 社会人基礎力の養成 主体性を持って行動する人材の育成 多能工化の推進 技能伝承も含めた教育の充実 	<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>地球環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー電力の活用 化石燃料の使用削減（CO₂削減） 	<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>働きやすい職場</p> <ul style="list-style-type: none"> 男女の区別のない職制 女性、障害者雇用 職場環境の改善 働き方改革 健康経営の推進
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>技術革新</p> <ul style="list-style-type: none"> 競争力あるコストの実現 製品の高付加価値化 新商品、新技術の開発 AI、IoTを活用した生産性向上 新規設備投資と有効活用 高効率設備への生産集約 	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>地域とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然災害に強い事業所 地域社会貢献、共生 交通安全 	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>ものづくり企業の責任</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物削減 在庫管理による資源の有効活用 品質、納期の安定供給 歩留まり向上 生産、品質管理データの信頼性の向上 SDGsに取り組む会社との取引強化

重点
取り組み項目
2021年4月
制定

② 「ヒトづくり」の更なる推進

- CC21に引き続き、主体性をもって積極的に行動する人材の育成に取り組むとともに、OJTソリューションズ・イズムの全社展開により、「強い現場」の実現を図る
- 社員のレベルアップのための社内教育を継続実施する

③ 「モノづくり」の強化

- モノづくり力の強化を図るべく、特に以下の5つの課題に注力する
- ① 「つくり込み」の見直しと改善
 - ② 生産性向上の徹底追及
 - ③ 上方弾力性の確保
 - ④ 高効率生産設備の導入
 - ⑤ 品質の更なる改善と管理の強化

④ 営業戦略の積極推進

- CC21に引き続き、マーケティング戦略を更に推し進め、新規需要の取り込み、新規顧客の開拓に繋げる
- 将来に向けた確な種蒔きと攻めの営業の実践により、市場シェアの拡大、収益力の向上を図る

⑤ 経営基盤の強化

- 「経営ビジョン」と「経営戦略」の達成を支えるべく、特に以下の課題に取り組む
- ① 新基幹システムの導入（業務の標準化、データの積極活用など）、② 最新デジタル技術の有効活用（DX化の積極推進、人材育成など）、③ 危機管理体制の強化（情報セキュリティ、パンデミック対応など）、④ MSMの業績改善と総合的支援（早期黒字化、わが社バックアップ強化など）、⑤ 社会貢献活動の継続実施、対外発信の強化など会社認知度の向上

⑥ 社員満足度の高い会社の実現

- 工場内環境の改善、安全衛生活動の一層の推進、長時間労働の削減など「働きやすい職場」の推進
- 健康経営、女性社員の活躍推進、ハラスメントの無い職場、人事ローテーション・社内出向制度の検討、テレワーク・ウェブ会議の更なる導入など、「働き方改革」を更に推し進めることにより、「より働き甲斐のある会社」の実現を図る

環境理念・方針

「環境理念」を達成するために「環境方針」を定め、全員参加で環境保全活動に取り組むことにより、お客さまの信頼、従業員の満足、地域社会への貢献を目指します。

環境スローガン

「もっとまわりを大切に！」



環境理念

私たちのまわりを取り巻く、自然や、生物や、人々に感謝し、私たちの企業活動を通じ、より大切に、より改善して、次世代にバトンタッチ出来るよう「良き企業市民」として行動します。

環境方針

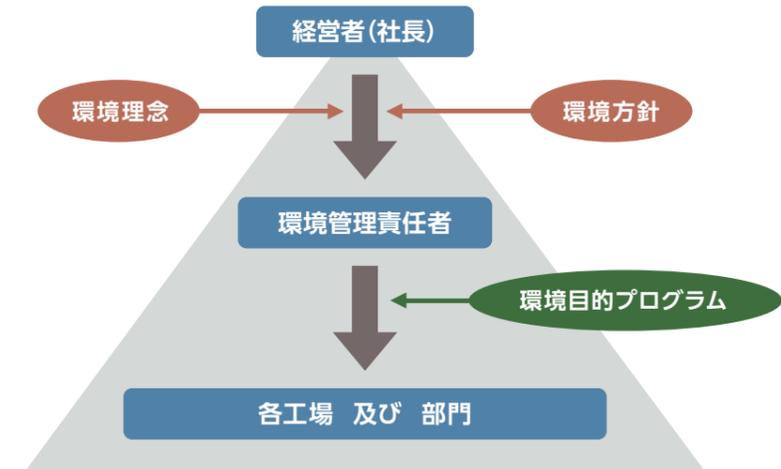
私たちは、地球環境の向上と企業活動を調和させ、環境負荷の低減を考慮した生産活動を追及することにより環境保全と資源を大切にする企業活動を推進します。

また、上記スローガンを念頭に、次の活動項目を推進します。

1. 宮崎精鋼株式会社が行う全ての事業活動について、環境影響を評価し、汚染の予防に努めると共に、技術的、経済的に可能な範囲で、環境保全活動に取り組み、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境パフォーマンスを向上させます。
2. 環境関連の法律、規制、協定等を順守するとともに、技術的、経済的に可能な範囲で、自主基準を設定し、環境に影響を与える恐れのある事業活動を責任をもって管理します。
3. 社内改善活動を実行し、省資源・省エネルギー活動の推進、地球温暖化防止活動に積極的に取り組みます。また、環境保全、資源保護、再生産性に優れた資材の購入に努めます。
4. ゼロエミッションによって廃棄物の再資源化率99.5%を維持します。
5. “5S活動”を通じ、工場内とその周辺の美化、作業環境の改善を推進します。
6. 地域住民とのコミュニケーションを大切にします。
7. この環境方針達成のために、環境目的及び目標を設定するとともに、定期的及び必要に応じてこれを見直します。
8. この環境方針を全従業員に環境教育・訓練により、周知徹底を図ります。また、取引先に対しても理解と協力を求めていきます。

推進体制と活動経緯

推進体制



環境活動の経緯

2001年 6月	ISO14001認証取得(1996年版)
2004年 9月	ゼロエミッションのキックオフ
2005年 6月	第1期ゼロエミッション目標 全工場にて95.0%達成
2005年 11月	名古屋市エコ事業所認定(本社工場)
2006年 3月	第2期ゼロエミッション目標 全工場にて98.5%達成
2006年 5月	ISO14001移行取得(2004年版)
2006年 6月	第3期ゼロエミッション目標 全工場にて99.5%達成
2006年 10月	5S活動のキックオフ
2008年 8月	コイル素材無人搬送車「AGV(Automatic Guided Vehicle)」を導入(本社工場)
2008年 11月	環境報告書 第1版発行(2008年以降は毎年発行)
2008年 11月	名古屋市エコ事業所認定の更新(本社工場)
2009年 3月	No.2 新連続炉の新設(知多工場)
2010年 1月	線材用の新酸洗設備ラインの新設(知多工場)
2011年 5月	コイル素材無人搬送車「AGV(Automatic Guided Vehicle)」を導入(知多工場)
2011年 11月	名古屋市エコ事業所の2回目更新(本社工場)
2011年 12月	スラグ用の新酸洗設備ラインの新設(知多工場)
2012年 7月	排水処理設備の更新(本社工場)
2012年 9月	パー酸洗設備の更新(本社工場)
2013年 1月	コイル酸洗設備の更新(本社工場)
2015年 1月	名古屋市優良エコ事業所認定(本社工場)
2015年 2月	中部地方電気使用合理化委員会委員長表彰受賞
2015年 12月	スラグ用の新STC炉の新設(知多工場)
2016年 6月	ISO14001移行取得(2015年版)
2019年 1月	スラグ検査フロー、金型管理室、金型立体倉庫の新設(知多工場)
2020年 3月	ピーリングマシンの新設(十四山工場)
2020年 8月	伸線13号機の更新(知多工場)
2021年 1月	名古屋市優良エコ事業所更新(本社工場)
2022年 4月	ISO14001(2015年版)登録活動範囲から宮崎エンジニアリングを除外
2023年 2月	No.4.5 新STC炉の新設(知多工場)

環境教育

本社工場は小学校や商店街及び住宅街に隣接した場所に位置し、また、知多工場や十四山工場も同様に住宅地に隣接しているため、地域の環境の大切さを考えて環境問題に取り組んでいます。

社内啓蒙活動

環境マネジメント教育

従業員に、新年度の環境方針・目標を周知させ、工場の活動による環境影響とその責任について教育し、環境保全維持のための環境意識の向上に努めています。

内部環境監査

環境マネジメントシステムの適合性と有効性および法令の遵守の状況などを確認するため、毎年定期的に内部環境監査を実施しています。内部監査員のレベルを高めるため、毎月、関連法規の勉強会を開催しています。また、内部監査の不適合については「内部監査是正処置報告書」を作成し、年度末に行う環境マネジメントレビューのインプット情報として経営者に報告し、次年度へのレベルアップに繋がっています。

安全衛生教育

労働者がストレスのない健康で安全な作業ができるように、必要な安全衛生に関する知識を学んでいます。労働災害防止として、設備や作業上、及び化学物質についての取り扱いリスクアセスメントを実施し、危険予知活動、指差呼称、ヒヤリハット報告を行って安全強化に努めています。また、各工場3ヶ月に1回産業医の先生に工場をご視察して頂き、ご指導を頂いています。



安全衛生委員会

5S活動

年に1回、会長、社長以下、全役員および、労働組合幹部にてトップパトロールを実施し、在庫管理の強化・工夫、機械周りの油や埃の清掃、挨拶など、5S活動の進化を評価し、最優秀賞・優良賞・努力賞を表彰しています。

また、5Sポスターや5S標語を募集して、優秀賞や佳作賞を表彰するとともに掲示し、5S意識の高揚に役立てています。



トップパトロール巡回風景



5Sポスター 入選作

<p>隙間時間にぶち清掃 「キレイ」の秘密は日々にある</p> <p>本社工場 総務人事課 山中 千明</p>	<p>5Sで目指す我々のゴール 持続可能な安全職場</p> <p>十四山工場 業務製造課 村上 悠史</p>	<p>気付いた時にすぐ行動 「後でいいや」がムダの山</p> <p>知多工場 スラグ班 大矢 翔太</p>
---	--	---

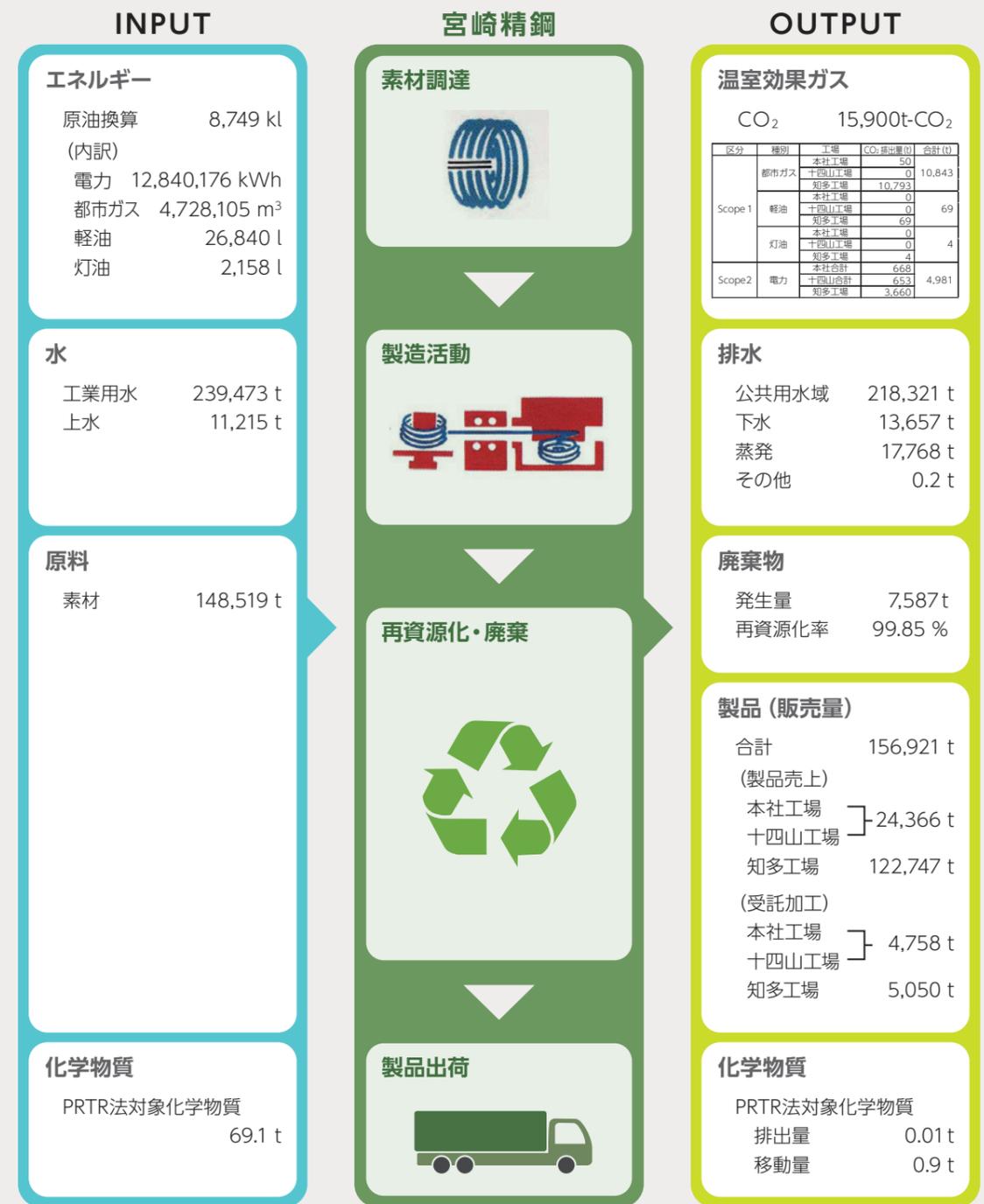
5S標語 優秀作

マテリアルバランス

マテリアルバランスとは、企業の事業活動におけるエネルギーおよび資源の投入量（インプット）と、その活動に伴って発生した環境負荷（アウトプット）をあらわしたものです。当社では、事業活動に伴って発生する環境負荷を把握し、その低減に向けて取り組んでいます。

報告対象期間 ● 2022年4月1日～2023年3月31日

報告対象範囲 ● 当社の3工場（本社工場、十四山工場、知多工場）

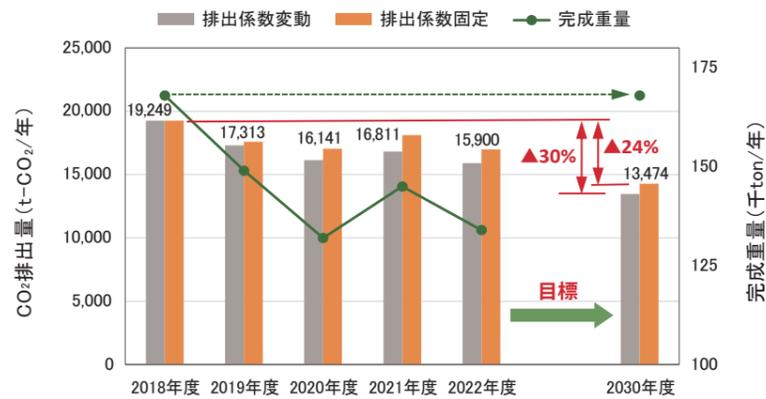


カーボンニュートラル

「カーボンニュートラル」は、社会への貢献活動として必要不可欠な重要取り組み事項です。産業革命以前に比べて既に気温が約1.0℃上昇しており、現状のペースだと、2030～2052年の間に1.5℃上昇すると言われています。上昇を1.5℃以下に抑えるためには、CO₂排出量を2010年比45%削減2050年までに実質ゼロとする必要があります。

当社では、CO₂の排出量を2030年までに2018年度対比30%減、2050年までに実質0を目標に活動を行っています。

CO₂の排出実績および削減目標



2030年度 CO₂削減目標
 CO₂排出量2018年度対比 ▲30%
 (排出係数の影響により実質 ▲24%)

※算出条件
 ・完成重量：2018年度と同じ
 ・CO₂排出量：Scope1,2のみ

カーボンニュートラルへのアプローチ

- ① 省エネの追求…6STEP活動の推進
- ② 製造工程/方法の見直し…規格・条件緩和による工程短縮または省略および生産性改善
- ③ 新技術の活用…水素・アンモニアの活動技術、CO₂の回収・貯蔵・利用
- ④ 証書購入…再生可能エネルギー、J-クレジット

取り組み実績

- ① 日常
 - ・稼働終了後の電源、バルブ遮断の徹底
- ② 設備改善 (シーケンス変更)
 - ・空運転発生時の自動停止回路追加
 - ・電力使用量の見える化
 - ・エアブローの間欠化
- ③ 設備導入
 - ・工場・事務所の照明のLED化
 - ・コンプレッサーの台数制御化
 - ・コンプレッサー、ポンプ、スクラバーのインバーター制御化
 - ・エア機器の電動化 (ブロアー、サーボモーター)
 - ・高効率・高生産性設備へ更新 (PM機、面取り機、伸線機他)
 - ・省エネ設備へ更新 (ボイラー、各種主モーター他)

今後の取り組み

- ・製造条件の変更などによる更なる生産性の向上
- ・設備改善・導入設備において効果のあったものに対し全社への水平展開
- ・新たな省エネの手法・設備の取入れ

緊急事態対応テスト

当社では、環境リスクが大きいと想定される緊急事態を特定し、直接又は間接要因で起こりうる有害な環境影響を予防・緩和するための手順として「緊急事態対応指示書」を定めています。年に1回、主管部門が緊急事態の対応テストを実施し、手順の有効性を確認しています。

尚、今年度も緊急事態に特定した事故はありませんでした。

発生場所	写真 No.	想定される緊急事態	生じる環境影響
本社工場	②	粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染
	③	溶接火花の引火による火災	大気汚染
	知多工場	④ 粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染
知多工場	⑤	停電時の熱処理炉停止による不具合品の大量発生	廃棄物増大
	⑥	排水処理設備よりPH異常の排水が流出	水質汚染
十四山工場	⑦	粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染
	⑧	溶接火花の引火による火災	大気汚染



① 遮蔽板の取付け訓練



① 濃硫酸の回収訓練



②、③ 消火器による消火訓練



④ 粉塵火災テストの説明 (CH鋼線)



④ 消火栓による消火訓練 (ファインスラグ)



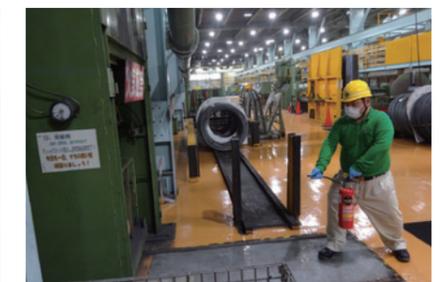
⑤ 冷却水バルブの切換え確認



⑤ 自家発電装置の動作確認



⑥ 流量計により流出停止を確認



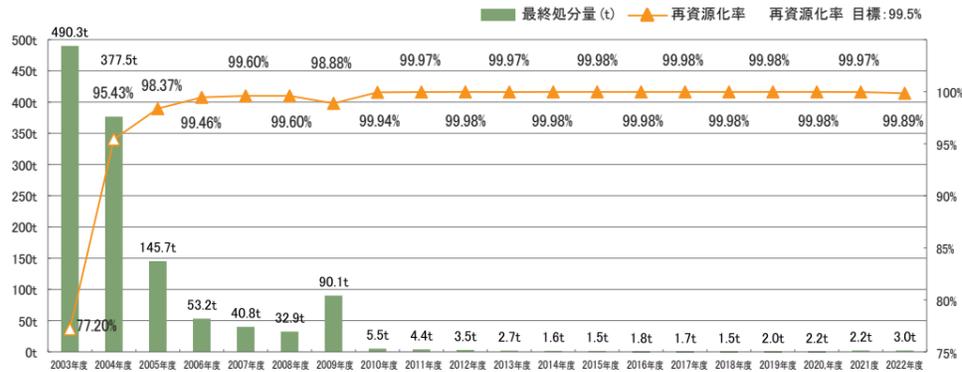
⑦、⑧ 消火器による消火訓練

ゼロ・エミッション活動

当社は循環型社会を実現するために、ゴミの分別と3R(Reduce(リデュース:減量化)、Reuse(リユース:再使用)、Recycle(リサイクル:再資源化))の活動を基本として、廃棄物削減と再資源化の推進に向けた活動をしています。

ゼロ・エミッションの推移

再資源化率と最終処分量(埋め立て廃棄物)の推移



※2004年度よりゼロ・エミッション活動をスタートした結果、再資源化率は2003年度の77.2%に対し、2004年度は95.43%に上がりました。2007年度より目標の99.5%以上を達成しています。

廃棄物の排出量と内訳

2022年度の当社の総排出量は7,587tで、再資源化率の実績は、99.89%でした。

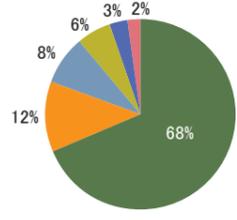
排出内訳

工場	知多工場	本社工場	十四山工場	全工場
再資源化量 (t)	4,896	979	1,659	7,534
埋立量 (t)	1.6	0.8	0.6	3.0
焼却量 (t)	10	7	6	23.0
排水量 (t)	13	9	0	22.0
再資源化率 (%)	99.92%	99.80%	99.88%	99.89%

*再資源化率=再資源化量÷(排出量-焼却量-排水量)

種類別廃棄物の排出量と構成比率

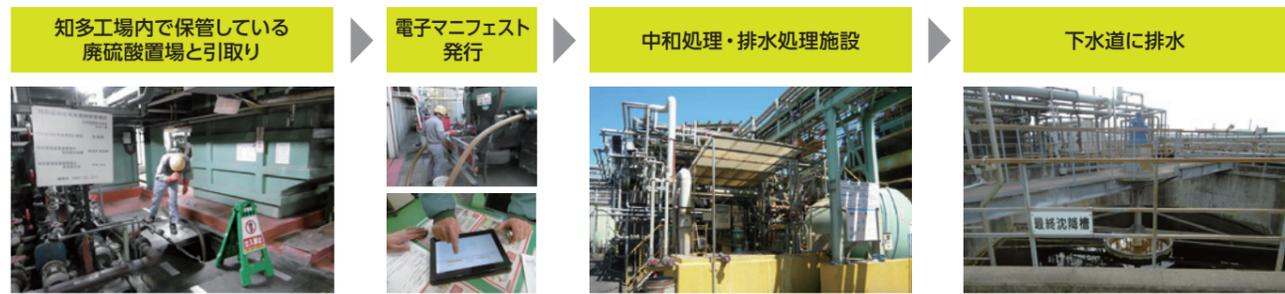
全工場	2021年度排出量	構成率	2022年度排出量	構成率
鉄関係 (t)	5,686	68%	5,083	68%
廃酸 (t)	1,103	12%	955	12%
七水塩 (t)	679	8%	649	8%
汚泥 (t)	564	7%	497	6%
粉じん・スケール (t)	242	3%	232	3%
廃油・廃プラ・一般ゴミ (t)	170	2%	171	2%
合計 (t)	8,487	100%	7,587	100%



(2022年度の構成比率のグラフ)

廃棄物の適切な分別と産業廃棄物処理業者の適正な処理

環境法に従い、生産活動に伴って発生する廃棄物を廃棄物置場に保管し、処理業者に処理を委託しています。また、マニフェストを発行して産業廃棄物の処理の流れを自ら把握し、不法投棄等を防止すると共に、適正な処理がされているか愛知県条例に従い、年に1回の現地確認をしています。



株式会社ダイセキ殿の現地確認写真

省エネ活動

当社は、CO₂排出“ゼロ”(カーボンニュートラル)を目指して、エネルギー使用の合理化や、設備の高効率化など継続的な省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。

全工場エネルギーの使用実績 (2022年4月~2023年3月、原油換算:8,749kl)



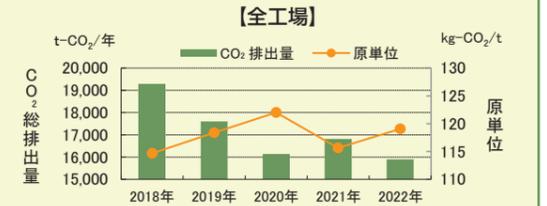
(目標と実績)2019年度を基準年としたエネルギー原単位の削減目標と実績

全工場エネルギーの原単位の削減	年度	2019年度基準年	2020年度	2021年度	2022年度
	計画	—	▲0.1%	▲1.0%	▲1.5%
実績	—	21.47kl/千t	22.07kl/千t (+2.8%)	21.46kl/千t (▲0.05%)	22.10kl/千t (+2.9%)

※3か年の削減目標と基準年を環境目的プログラム一覧表に定めています。
※原単位の分母は生産重量(各工程の合計生産重量)としています。

全工場 二酸化炭素 排出量推移

全工場	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
CO ₂ 総排出量 (t)	19,249	17,600	16,141	16,811	15,900
前年度対比	—	▲8.6%	▲8.3%	4.2%	▲5.4%
2018年度対比	—	▲8.6%	▲16.1%	▲12.7%	▲17.4%
原単位 (kg)/t	114.67	118.38	121.99	115.66	119.05
前年度対比	—	3.2%	3.0%	▲5.2%	2.9%
2018年度対比	—	3.2%	6.4%	0.9%	3.8%



※2018年対比で2030年までにCO₂排出量を30%削減する目標を新中期経営計画で設定しました。2022年度までに2018年度対比で17.4%総排出量を削減しています。

本社工場

主な取り組みと計画

()は2018年度対比

- ① 空転パトロールの実施と指摘箇所の対応(実施済)
- ② 超音波探知機によるエア漏れ摘出と対応(実施済)
- ③ 電力監視機器の取付けとデータ採取(計画)

(総排出量) 718t-CO₂ (44.8%減)
(完成原単位) 50.99kg-CO₂/t (33.8%減)
(前年原単位比) 8.3%減



十四山工場

主な取り組みと計画

()は2018年度対比

- ① 空転パトロールの実施と指摘箇所の対応(実施済)
- ② 電力監視機器の取付けとデータ採取(実施済)
- ③ 超音波探知機によるエア漏れ摘出と対応(計画)

(総排出量) 653t-CO₂ (37.6%減)
(完成原単位) 38.42kg-CO₂/t (24.3%減)
(前年原単位比) 0.7%減



知多工場

主な取り組みと計画

()は2018年度対比

- ① 伸線6号機メインモーターインバーター化(実施済)
- ② 電力の見える化による電源OFFの徹底(実施済)
- ③ 事務所棟エアコン更新による電力削減(計画)

(総排出量) 14,528t-CO₂ (14.0%減)
(完成原単位) 141.77kg-CO₂/t (5.7%増)
(前年原単位比) 3.1%増



環境目的プログラム達成状況

『環境目的プログラム』に沿って環境管理活動を推進しています。

1. エネルギーの削減

※目標の達成度：★★★★100%以上 ★★★75%~99% ★★50%~74% ★49%以下

工場別	項目	2022年4月~2023年3月		
		目標	実績	評価
全社	エネルギーの削減	2019年度比 1.5%減(原単位)	2.9%増	★(※1)
本社工場	電力使用量の削減	2019年度比 0.5%減(原単位)	5.2%減	★★★★
	都市ガス使用量の削減	2019年度比 0.5%減(原単位)	6.1%増	★(※2)
	エネルギーの削減	2019年度比 0.5%減(原単位)	6.2%減	★★★★
知多工場	瞬間最大電力使用量の削減	2019年度比 0.5%減	9.8%減	★★★★
	電力使用量の削減	2019年度比 1.0%減(原単位)	0.1%減	★(※3)
	都市ガス使用量の削減	2019年度比 1.2%減(原単位)	5.9%増	★(※4)
十四山工場	エネルギーの削減	2019年度比 1.6%減(原単位)	4.0%増	★(※5)
	瞬間最大電力使用量の削減	2019年度比 0.0%	0.9%減	★★★★
	電力使用量の削減	2019年度比 2.0%減(原単位)	4.0%減	★★★★
十四山工場	エネルギーの削減	2019年度比 2.0%減(原単位)	1.8%減	★★★
	瞬間最大電力使用量の削減	2019年度比 5.0%増	3.2%減	★★★★

※瞬間最大電力使用量：各月の瞬間最大電力使用量の平均を実績としています。

2. 廃棄物の削減

工場別	項目	2022年4月~2023年3月		
		目標	実績	評価
全社	ゼロエミッション	再資源化率 99.5%以上	99.85%	★★★★
本社工場	ゼロエミッション	再資源化率 99.5%以上	99.85%	★★★★
知多工場	ゼロエミッション	再資源化率 99.5%以上	99.80%	★★★★
	廃酸の削減(CH鋼線)	40 t / 月以下	44.1 t / 月	★★★
十四山工場	廃酸の削減(ファインスラグ)	10 t / 月以下	5.5 t / 月	★★★★
	ゼロエミッション	再資源化率 99.5%以上	99.98%	★★★★

3. 環境負荷の低減

工場別	項目	2022年4月~2023年3月		
		目標	実績	評価
本社工場	排水基準の順守	基準値外れゼロ/年	0件/年	★★★★
	法・条例の順守(騒音)	敷地境界線での規制値外れゼロ/年	0件/年	★★★★
知多工場	排水基準の順守	基準値外れゼロ/年	0件/年	★★★★
	法・条例の順守(騒音)	敷地境界線での規制値外れゼロ/年	0件/年	★★★★
十四山工場	法・条例の順守(騒音)	敷地境界線での規制値外れゼロ/年	0件/年	★★★★

〈目標を達成出来なかった要因と反省〉

- ※1：知多工場のエネルギー削減目標が未達のため、全社も目標未達となりました。
- ※2：週2日稼働で対応していましたが、生産量の減少で都市ガス原単位の削減目標が未達となりました。
- ※3：生産量の減少で電力原単位の削減目標が未達となりました。
- ※4：年間を通して生産量が減少し、都市ガス原単位の削減目標が未達となりました。
- ※5：都市ガス原単位の削減目標が上記の※3の理由により未達となり、結果として知多工場のエネルギー削減目標が未達となりました。

環境測定データ 2022年4月~2023年3月 実施

環境法規に従い決められた頻度で測定し、規制値内であることを確認しています。

本社工場

項目	単位	規制値	測定値		備考・設備	
			平均値	最大値		
大気	窒素酸化物	ppm	150以下	28.8	36.5	ボイラー
	ばいじん濃度	g/Nm ³	0.05以下	0.001	0.001	ボイラー
水質	水素イオン	pH	5~9	7.2	7.7	
	生物学的酸素要求量	mg/L	2,000未満	8.8	17.0	
	浮遊物質	mg/L	1,400未満	2.8	7.0	
	N-ヘキササン抽出物質含有量	mg/L	鉱油5以下	<0.5	<0.5	
			動植物油30以下	<0.5	<0.5	
亜鉛含有量	mg/L	2以下	0.02	0.05		
溶解性鉄	mg/L	10以下	0.6	1.5		

項目	測定場所	単位	測定値		備考・設備		
			夜間	昼間			
騒音	指定6か所	dB	60以下	65以下	49	55	
振動	指定5か所	dB	60以下	65以下	35	42	

十四山工場

項目	測定場所	単位	測定値		備考・設備		
			夜間	昼間			
騒音	指定4か所	dB	50以下	60以下	48	59	
振動	指定4か所	dB	60以下	65以下	36	39	

知多工場

項目	単位	規制値	測定値		備考・設備	
			平均値	最大値		
大気	窒素酸化物	ppm	150以下	20.8	27.5	ボイラー
			190以下	55.2	63.8	No.1連続炉
			180以下	39.8	51.9	No.2連続炉・STC炉
大気	ばいじん濃度	g/Nm ³	0.05以下	0.001	0.001	ボイラー
			0.20以下	0.001	0.001	No.1連続炉
			0.10以下	0.001	0.001	No.2連続炉・STC炉
水質	水素イオン	pH	5.8~8.6	7.3	7.6	
	化学的酸素要求量	mg/L	最大10以下	2.0	6.2	
			平均9以下	1.8	5.2	
	浮遊物質	mg/L	20以下	0.5	0.6	
	N-ヘキササン抽出物質含有量	mg/L	2以下	0.5	0.6	
窒素含有量	mg/L	15以下	9.2	12.8		
燐含有量	mg/L	1以下	0.11	0.71		

項目	測定場所	単位	測定値		備考・設備		
			夜間	昼間			
騒音	指定7か所	dB	60以下	70以下	51	69	
振動	指定7か所	dB	65以下	70以下	45	45	

〈騒音測定状況〉



本社工場



十四山工場



知多工場

品質方針

品質方針

当社は、常に「お客様の目線」に立って、より良い品質・納期・競争力のあるコストを実現し、さらに時代の変化に対応した技術と商品を開発・提供することで社会に貢献することを理念とする。

さらに、世界トップクラスの特種鋼棒線二次加工メーカーとなることを目指し、下記の活動を推進する。

- 1) 顧客のニーズと期待を把握し、製品を作り込む際の要求事項を明らかにし、これを満足する製品を提供し続ける。
- 2) 更なる魅力ある商品を提供する為に、品質マネジメントシステムを継続的に改善する。
- 3) 品質方針の実現に向けて、品質目標を設定し、達成努力する。また、適宜、レビューを実施する。
- 4) 法令等の規制事項を遵守し、品質マネジメントシステムが機能する為に、継続的に見直しを行う。

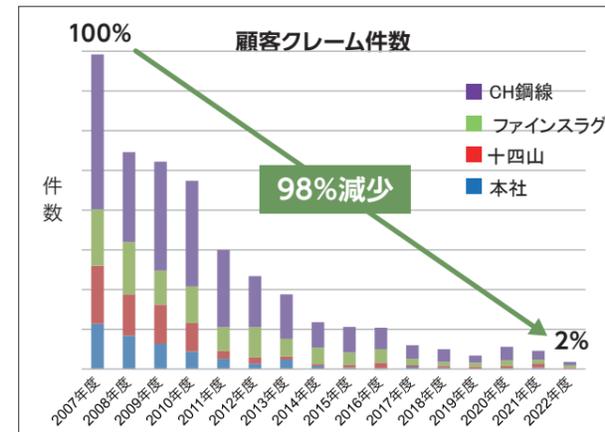
品質維持、改善に向けた取り組み

当社は、常に「お客様の目線」に立って、より良い品質・納期・競争力のあるコストを実現し、さらに時代の変化に対応した技術と商品を開発・提供することで社会に貢献することを理念としています。

社内不適合に対しては、主に製造工程監査にて、コントロールプラン、FMEAおよび、作業標準の整合性を確認しています。特に、曖昧作業の撲滅を目指しており、基準値・狙い値・調整作業の数値化・明確化を図っています。素材不適合に対しては、顧客クレーム件数の48%を占める鋼片疵・圧延疵を主として、鉄鋼メーカーを訪問し対策状況を現地・現物で確認しています。上記の取り組みにより、顕在化した不具合の撲滅、潜在的な不具合の未然防止に努めています。

品質実績の推移

■ 全社の品質実績



2007年 クレーム件数の部門ごとの割合

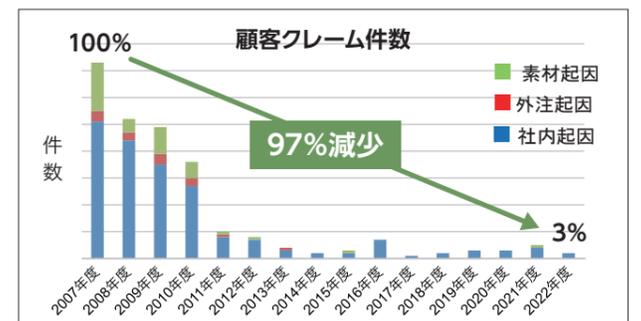
本社	14.4%
十四山	18.4%
CH線材	49.2%
ファインスラグ	17.9%

- ① 社内不適合に対する取り組み
 - ・ 製造工程監査による曖昧作業の撲滅
 - ・ なぜなぜ分析による原因追及の深堀
 - ・ 5S活動、毎朝の現場パトロールによる危険の目の早期発見
 - ・ 新規または工程変更品に関して、DRと工程能力調査の実施
- ② 素材不適合に対する取り組み
 - ・ 鉄鋼メーカー訪問による不具合対策状況の確認(情報共有化)

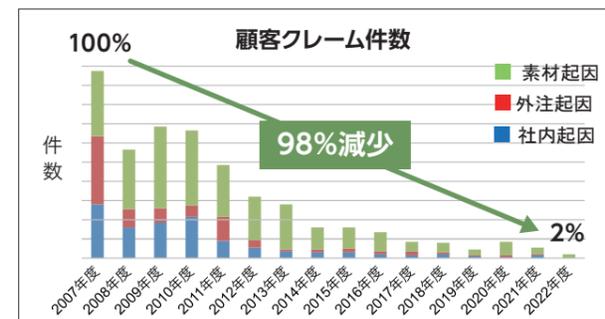
■ 本社工場の品質実績



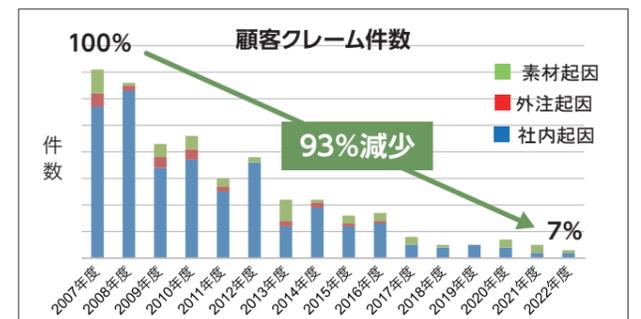
■ 十四山工場の品質実績



■ 知多工場 (CH鋼線) の品質実績



■ 知多工場 (ファインスラグ) の品質実績



労働災害の撲滅

『休業・不休業災害0件』を目標に全社一丸となり、労働災害の撲滅活動を行っています。主な活動は、従来から行っている安全衛生会議、安全パトロール、直近ではクレーン作業における333運動、操作禁止札使用の徹底など、安全な職場を目指し、日々努力しております。

全社の安全取り組み

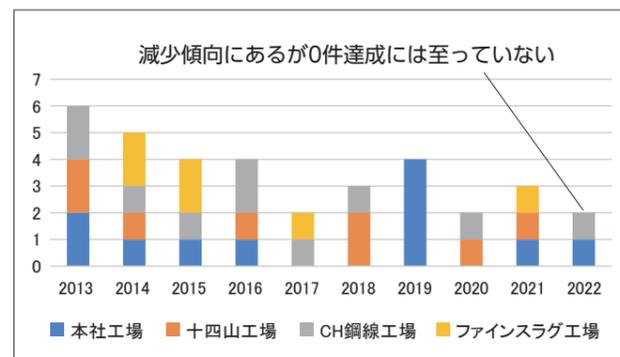
	活動内容	頻度	活動内容
①	安全衛生会議	1回/月	各職場の安全活動の報告および意見交換
②	安全パトロール	1回/月	管理者が工場巡回し、指摘・改善を繰り返し災害を防止
③	危険予知訓練	≥ 1件/月	各職場に潜む危険を予想し、改善していく訓練
④	ヒヤリハット	≥ 1件/月	災害には至らなかった事故の未然防止活動

各工場の安全取り組み

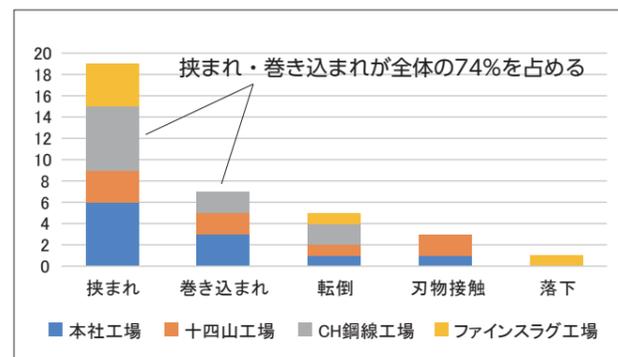
磨棒鋼管工場	①	安全に対する過去トラを盛り込んだ作業標準への変更・安全基本作業の遵守
	②	K Y T（危険予知訓練）、ヒヤリハット活動と危険体感教育の継続
CH鋼線工場 ファインスラグ工場	①	潜在的な危険作業の抽出と改善
	②	リスクアセスメントの見直しによる、重大災害につながるリスクの低減

災害発生状況

■ グラフ1：工場別の災害発生件数



■ グラフ2：要因別発生件数



今後の課題

労働災害は、減少傾向にあるものの、無災害には至っておらず、挟まれ、巻き込まれが大半を占めています。これらを撲滅するために操作禁止札使用の徹底、回転物への巻き込まれ防止対策（ハード・ソフト）をさらに進めていきます。また、これらの活動を作業標準に展開し、労働災害ゼロの達成に向け活動して参ります。

健康経営

宮崎精鋼は、従業員一人ひとりが働く生き甲斐と活力ある職場、即ち従業員の健康保持・増進や職場の環境改善を目指し健康経営を推進しています。この取り組みをさらに推し進めるため、2021年4月に宮崎精鋼が目指す「健康経営基本方針」ならびに健康経営の理念やあり方をまとめた「健康宣言」を制定しています。

2022年と2023年3月には取り組みが評価され、健康経営優良法人2022・2023（中小規模法人部門）に2年連続して認定されています。



健康経営方針

宮崎精鋼は、「社員に対する責任は、働く生き甲斐と活力ある職場を作る事」という経営理念を追求すべく、社員の健康保持・増進や職場の環境改善に取り組んでいます。社員が心身ともに健康で、いきいきと仕事に取り組み、一人ひとりが力を発揮することが、会社の生産性や創造性の向上につながり、ひいては「より働き甲斐ある会社の実現」を目指し、従業員が安心して健康で働ける職場や環境づくりに取り組んでいます。

健康宣言

宮崎精鋼は、健康経営方針に基づき、以下に掲げる施策を通じて、社員一人ひとりの健康と安心して働ける職場や環境づくりに継続して取り組むことを宣言します。

1. 社員の健康増進・過重労働防止に向けた取り組み
2. 社員が健康診断を受診すること、および、再検査勧奨の取り組み
3. 社員の健康管理に関する法令の遵守
4. メンタル不調者への対応
5. 病気の治療と仕事の両立支援

健康づくりの取り組み（一例）

- 敷地内全面禁煙 …………… 2021年4月以降継続中
- KSP（健康・サポート・プログラム）アプリ導入 …………… 2021年4月
- 食事改善に向けたアプリ提供 …………… 2021年4月
- 生活習慣病健診の実施 …… 2021年11月以降（毎年）
- 婦人科健診の実施 …………… 2021年11月以降（毎年）
- 特定保健指導の実施 …………… 2021年7月以降（毎年）

実績

- 再受診率（有所見者） 2021年 受診率 52%
- 2022年 受診率 76%
- 生活習慣病健診受診率 2021年/2022年 受診率 100%
- 特定保健指導受診率 2021年/2022年 受診率 100%
- ストレスチェック受検率 2021年 受検率 95%
- 2022年 受検率 97%
- 2023年 受検率 99%

サプライチェーンマネジメント

当社は資機材、工事、サービス等のお取引先様との共存共栄、親睦を図り、社会福祉に貢献することを目的として、1977年に「五精会」を発足し、以来継続的な活動を行って参りました。

昨今大地震・台風など自然災害、感染症の蔓延、国際紛争等によりサプライチェーンが断絶するケースが多く発生、また自然災害や情報セキュリティ事故により工場が操業停止に追い込まれる、あるいは、ESG経営、SDGsに対する取り組み、とりわけCO₂排出削減、カーボンニュートラルなど、各企業が環境や社会的責任を果たすことへの期待が年々高まっています。

これらの期待に然りと応えるため、「五精会」の機能を活用し、更に充実させるべく、活動を宮崎精鋼グループまで拡げた上で、会員各社との連携を強化し、現在そして今後のわれわれに求めている市場や、パートナーの会員各社が抱えている課題に然りと対応することを目的に、同会を「五精会パートナーシップ交流会」に名称変更の上、「品質・納期の維持向上」「生産性向上、コスト低減」「適正取引の周知徹底」「BCP（事業継続計画）の対策強化」「カーボンニュートラル対策ほかの環境問題対策」「デジタル化、情報セキュリティ対策」などの課題に取り組むことといたしました。

五精会パートナーシップ交流会開催

キックオフとなる第1回の交流会を本年（2023年）2月20日（月）に、お取引先50社、当社役員・社員を加えた計80人の参加のもと、「ウイングあいち」（名古屋市中村区名駅）にて開催いたしました。

冒頭の五精会・宮崎会長（宮崎精鋼会長）の挨拶の後、宮崎精鋼・宮崎社長より、今回に取り組みに至った経緯や考え方、今後の取り組み方針について説明がなされ、続いて、第1回目として、会員各社様には改めて宮崎精鋼についてより良く知っていただくため、社長以下、全役員により中期経営計画、オペレーションの概要、各担当分野における各課題に対する取り組み状況について説明させていただきました。

次回交流会は本年7月に開催の予定であり、今後年2回のペースで開催し、会員の各社様とともに各課題に取り組むことでサプライチェーンの強化を図ってまいります。



コンプライアンスへの取り組み

当社は、「公平で誠実な心を持ち信頼を築く事」を「社是」（行動指針）に掲げており、また、CIF30における経営ビジョンにおいても「社会から信頼、評価される品格のある会社を目指す」としています。法令・規制を遵守するのみならず、社内規則や業務マニュアルなどの「社内規範」、社会の常識・良識などの「社会規範」を遵守して初めて社会の信頼を得ることが出来るとの考えのもと、引き続き真摯に取り組んでいく所存であります。

当社のコンプライアンス活動は、社長を委員長とする「コンプライアンス推進委員会」が推進主体であり、コンプライアンスに関する基本方針や重要事項を審議・決定し、同委員会を構成する各部門の責任者（コンプライアンス監督者）が実践する体制としています。

コンプライアンス問題の芽を早期に発見し、自ら迅速かつ適切に解決するための制度として、ヘルプライン制度（内部通報制度）を設け、報告相談窓口を社内・社外（法律事務所）に設置、寄せられた情報等については、速やかに調査を行うとともに、必要に応じ是正・再発防止措置を行うこととしています。

情報セキュリティに関する取り組み

「情報セキュリティ基本規程」、「情報機器利用ガイドライン」を定め、「守秘義務」、「法令遵守」に沿った社内ルールを策定し、知識と意識を高めるための社内啓蒙活動（社内ルールの周知徹底のための説明会の開催、標的型攻撃メール訓練など）を行っています。

また、技術的な対策として、社外シンクライアント、VPN（仮想専用線）の活用、UTM（統合型脅威管理）での監視による外部・社外からの不正接続の防止、EDR（エンドポイントでの検出・対応）によるマルウェア対策、基幹系システムのバックアップ、情報系システムのクラウド化による障害発生時の業務停止時間の短縮、新ソフトの導入による重要文書管理の再構築を行っています。

今後の取り組みとして、一般社団法人 日本自動車工業会、日本自動車部品工業会が策定された「自動車産業サイバーセキュリティガイドライン」を活用させていただき、更なるレベルアップに取り組み、サプライチェーンを担う企業として責任を果たして参る所存であります。

情報セキュリティに対する取り組み実績

- ① 定期的な社内講習や情報発信を実施（随時）
- ② 標的型攻撃メール訓練実施（2回実施/年）
- ③ 最新ソフトウェアの維持管理を実施（随時） など

〈参考〉 社内講習資料抜粋

サイバー攻撃の昔と今

- 昔** 技術を見せつけるための愉快犯的な攻撃
私怨（しえん）による嫌がらせ
- 今** 金銭目的の犯行や、国家レベルのテロ活動
明確な悪意を持った犯罪
- サイバーテロ**
国家や政治主張、宗教的な背景にした活動
⇒政府機関、社会インフラへの攻撃など
- サイバースパイ活動**
企業がもつ重要情報を狙った活動
⇒開発設計データ、機密保護、顧客情報など
- サイバー犯罪**
金銭の取得を目的とした活動
⇒個人情報、クレジットカード情報、
オンラインバンキング情報など

※サイバー：インターネットが形成する情報空間

〈結果〉 標的型攻撃メール訓練結果：目標 100%

・不審メール認識率：85%



大規模災害への備え・BCP

当社は、CIF30で掲げた経営ビジョンと経営戦略の達成および事業活動の継続において、その阻害要因となる、あるいは悪影響を及ぼす可能性のある要因をリスクとして評価・認識し、合理的なコスト、活動により、リスクの軽減、最小化に取り組んでいます。

当社がリスクとして認識している主なものは右表の通りであり、社内各部門・担当部署が都度それぞれのリスク要因の現状を再評価の上、必要な見直しを行いつつ、取り組みを継続しています。

種別	リスク
外的リスク	① 大規模自然災害、② 資材・電気ガス等の価格変動など
内的リスク	① 労働災害、② 感染症、③ 製品品質、④ 環境、④ 法令・規制対応を含むコンプライアンス、⑤ 人権・個人情報、⑥ 情報セキュリティなど

事業継続に向けた取り組み (BCP)

1. 大規模自然災害への対応

南海トラフ地震など大地震、大型台風や集中豪雨による土砂・水害などの発生に備え、社員の安全の確認・確保とともに、重要な事業を継続、もしくは迅速に復旧を図るためのBCPを都度見直すとともに、毎年9月の防災月間には、緊急地震速報音訓練、安否確認メール訓練、初期消火・通報訓練、事業再開のための諸訓練を実施、また年2回の頻度で災害対策備蓄品の保管状況の点検を実施しています。

1 安否確認システム

災害時にYahoo!安否確認サービスを導入。地震発生（震度5弱以上）時には安否確認メールが自動で配信され、管理画面から回答状況が確認できます。（本人や家族の安否状況、自宅の被害状況、出社可否等）

毎年必ずテストメールを配信し、即時回答を意識づけています。

管理画面イメージ



2 防災訓練の実施

災害発生時の適切な行動を身に付けるための訓練を毎年9月に実施しています。身を守るための初動行動や安否確認、初期消火などをベースとしつつ内容は毎年見直しており、2022年は早期に事業を再開するための訓練を初めて実施しました。

実施事項

● 初動対応

- 緊急地震速報音放送
→身を守る初動
- 行動各自、一次避難場所へ移動
- 各職場、点呼と結果報告
- 安否不明者(想定)の検索・応急救護
- 対策本部・地区本部設置
- 危険物・有害物管理

● 初期消火・通報訓練

- 消防署への通報訓練
- 消火器・消火栓を用いた初期消火

● 対策本部・地区本部訓練

- 津波情報の収集・共有
- (拠点間の連絡に MCA 無線を活用)
- ガス式発電機の稼働(電源の確保)
- グループ全社の安否情報確認
- 各工場の被害状況確認
- 事業再開指示(新規実施)
- 作業人員の勤務可否確認、今後の生産再開判断



緊急地震速報装置



一次避難



応急救護



消火訓練



消火訓練



対策本部 (本社)



地区本部 (十四山)



設備の状況確認



変電所の確認

3 災害対策備蓄品の保管および点検

災害発生時、すぐには帰宅できない状況を想定し、各工場に災害対策備蓄品を準備しています。

年2回(5月、11月)備蓄品の点検を実施、状態や使用期限などを確認するとともに、備蓄品のリストを作成、職場に掲示することで、保管品目や場所を従業員に周知しています。

主な備蓄・保管品

- 食料・飲料水
 - ガス式発電機
 - 通信機器 (MCA無線・トランシーバー)
 - 非常用寝具 (真空パック毛布)
 - 非常用テント・簡易トイレ
 - 衛生用品 (生理用品、体拭きシートなど)
 - その他 懐中電灯、電池、スコップ、ツルハシなど
- ※消耗品の備蓄基準: 在籍人数の3日分



備蓄品 (一部)



MCA無線



発電機の稼働確認



備品リスト

4 その他啓蒙活動

● 地震災害時の初動対応マニュアル

地震発生時にどのような行動をとれば良いかを簡潔にまとめている他、災害時の自分の役割や家族の連絡先、地域の避難場所、上司の連絡先などの記入欄を設け、意識の向上につなげています。

● 津波防災動画の視聴

津波防災の日である11月5日前後に、津波の恐ろしさや正しい対応を啓蒙する為の動画を各工場で放送しています。



初動対応マニュアル

2. 感染症対策

当社は、2019年に発生、世界的に蔓延した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対策として、「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を同年2月に策定し、以来必要な修正を行いながら、全社を挙げて社内感染拡大の防止に努めて参りましたが、2023年5月に同感染症が2類感染症から5類感染症に変更となったことを契機に、過去3年間の対策や取り組みで得た知見をもとに、COVID-19、インフルエンザその他の感染症への対応を含めた「感染症対策ガイドライン」を制定し、より実効性の高い感染症対策のBCPとします。

● 主な感染対策

- ガイドラインの改定 (全24回中、2022年に4回改定)
 - 非接触検温器および手指消毒の設置 (2020年3月以降)
 - マスクの支給 (2020年1月以降継続中)
 - 復職前のPCRまたは抗原検査の実施 (2021年2月以降)
 - コロナワクチン職域接種の実施 (2021年7月)
 - 在宅勤務規程制定 (2021年2月)
 - パーティション設置 (オフィスレイアウト変更) (2020年11月)
- など



地域貢献（社会との交わり）

当社は循環型社会を実現するために、ゴミの分別と3R（Reduce（リデュース：減量化）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再資源化））の活動を基本として、廃棄物削減と再資源化の推進に向けた活動をしています。

地域共生活動

インターンシップ

就業体験を通じ、仕事や企業、業界、社会への理解を深めるとともに、早期からキャリア意識を醸成する場として、大学生・高校生を対象にインターンシップ（各種教育や作業体験など）を実施しています。



経理仕事の紹介（商業高校生）



現場作業体験（工業高校生）



現場作業体験（大学生）

工場見学

中川法人会篠原支部の企画に賛同し、法人会に所属する支部会員・青年部会・女性部会の皆様やボーイスカウト第121団の皆様に対し、当社の現場での取り組み（安全対策・5S活動・環境対策）を実際に間近で設備も見ていただきながら紹介する工場見学や、外部講師によるAED講習会（使用方法やマネキンを使用した心肺蘇生体験）を行いました。



本社工場見学



製品展示室見学



AED講習会

地域美化活動

地域清掃

当社の環境方針にも掲げる「5S活動」を通じ、工場内とその周辺の美化、作業環境の改善を推進する「地域住民とのコミュニケーションを大切に」に則り、工場周辺道路の清掃活動を月に1回以上実施しています。



本社工場 隣接の篠原小学校東門付近



知多工場 隣接の元浜公園前の公道



十四山工場前の公道

地域支援活動

交通安全

地域の皆様の交通安全を願い、毎月10日の「交通事故死ゼロの日」に横断歩道で立哨を実施し、近隣の皆様や通学途中の子供たちの安全意識向上のお手伝いをしています。



本社工場 主要幹線道路交差点付近



知多工場 東側の横断歩道

防犯カメラ・募金型自動販売機の設置

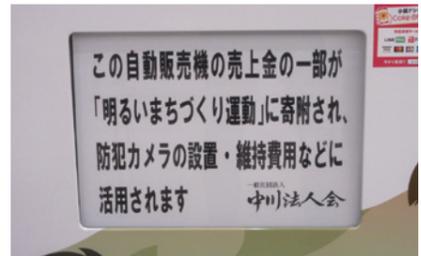
近隣地域の犯罪防止・防犯強化を目的に、本社工場に防犯カメラを設置している他、各工場に「募金型自動販売機」を設置し、その売上金の一部を防犯カメラや防犯灯の設置・維持管理費として寄付しています。



本社工場 防犯カメラ



募金型自動販売機



寄付

ウクライナでの人道危機対応と避難者に対する救助活動の支援及び、トルコ・シリア地震の被災者に対する支援を目的に、日本赤十字社に寄付しました。

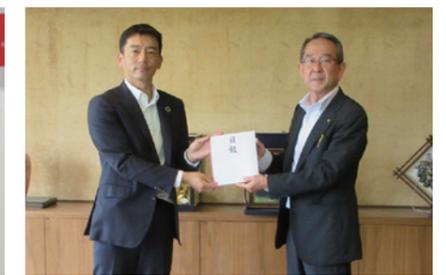
また、企業版ふるさと納税として、東海市子ども医療助成事業、自然環境再生事業、ものづくり子ども教室開催事業に寄付しました。



ウクライナ人道危機救援金



トルコ・シリア地震救援金



東海市「まち・ひと・しごと創生寄付活用事業」

